

報道発表資料の配付日時 3月13日(水)10時00分

発表項目 (行事名)	令和5年度(2023年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について		
概要	<p><b>【ポイント】</b>                  絶滅危惧種タンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的として毎年実施している本調査について、今年度2回目の調査を7(総合)振興局管内で実施し、前年度2回目の調査より22羽多い、1,366羽のタンチョウが確認されました。</p>		
	1 調査実施日時等		
		令和5年度(2023年度)第2回	[参考] 令和4年度(2022年度)第2回
	調査日時	1月24日(水)~26日(金)※	1月24日(火)
	調査区域	7振興局 35市町村	8振興局 41市町村
	調査箇所	計276箇所(319箇所)	計279箇所(348箇所)
	調査協力者	関係市町村・給餌人など計182人	関係市町村・給餌人など計101人
	※ 調査基準日: 1月24日(水) 補足調査日: 1月25日(木)~26日(金)		
	2 タンチョウ確認羽数		
	令和5年度 (2023年度) 第2回	合計:1,366 [成鳥:1,168、幼鳥:148、不明:13、飼育個体:37] うち野生個体:1,329 [空知:0、石狩:0、胆振:0、日高:9、十勝:94、釧路:1,159、根室:67]	
令和4年度 (2022年度) 第2回	合計:1,344 [成鳥:1,173、幼鳥:130、不明:2、飼育個体:39] うち野生個体:1,305 [空知:0、石狩:0、胆振:0、日高:4、十勝:82、釧路:1,172、根室:47]		
3 今回の調査結果に対する有識者コメント概要 (有識者:正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)			
○ 釧路管内の羽数の割合は減少を示しているが、依然として釧路管内への集中が続いている。			
○ 幼鳥の割合が高い水準を保っており、繁殖が良好だったとみられる。			
参 考			
報道(取材)に当たってのお願い			
他のクラブとの関係	<table border="1"> <tr> <td>同時配付 同時レク 記者レク</td> <td>道政記者クラブ、空知、石狩、胆振、日高、釧路及び根室の各(総合)振興局で同時配付します。</td> </tr> </table>	同時配付 同時レク 記者レク	道政記者クラブ、空知、石狩、胆振、日高、釧路及び根室の各(総合)振興局で同時配付します。
同時配付 同時レク 記者レク	道政記者クラブ、空知、石狩、胆振、日高、釧路及び根室の各(総合)振興局で同時配付します。		
そ の 他	第2回調査では、関係市町村をはじめ多くの方々の御協力をいただいております。 また、本調査は、平成29年度から北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社と協働で実施していますので、積極的な報道をお願いします。		
担 当 (連絡先)	北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係 (担当者:課長 廣橋、係長 小川)TEL 0155-26-9028 (直通)		

令和5年度（2023年度）第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的に、給餌人等のご協力のもと、環境省委嘱給餌場等の大規模給餌場を中心に、タンチョウの飛来数、幼鳥の有無等を把握するとともに、関係機関等のご協力のもと、給餌場、自然採餌場や農家の存在等の分布要因に着目して、タンチョウの所在位置情報について収集しました。

2 調査日時

令和6年（2024年）1月24日（水）～26日（金） 午前8時～午後4時

※ 基準調査日を24日とし、補足調査日を25日及び26日とした。

※ 環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤サンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと、北海道委嘱給餌場である高橋給餌場及び丸山給餌場並びにそれらの近接地区は、各給餌場の給餌時間帯に調査を実施。

3 調査区域及び調査地区

(1) 調査区域 7(総合)振興局、35市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域

(2) 調査地区 合計276地区(319箇所)

○調査地点所在市町村数の推移 (市町村数)

振興局	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
空知	3	3	3	3	2	3
石狩	1	1	1	1	1	-
後志	-	-	1	-	-	-
胆振	3	3	4	3	4	3
日高	2	2	2	2	2	3
留萌	1	-	-	-	-	-
宗谷	3	-	4	-	4	-
オホーツク	4	-	4	4	5	3
十勝	15	14	15	16	11	12
釧路	8	8	8	8	8	8
根室	4	4	4	4	4	3
合計	44	35	46	41	41	35

○調査地区数・箇所数の推移 (地区数(箇所数))

振興局	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
空知	8(8)	9(16)	8(9)	9(15)	8(8)	8(8)
石狩	1(1)	2(2)	2(2)	2(3)	3(3)	-
後志	-	-	1(1)	-	-	-
胆振	20(20)	5(6)	21(21)	5(6)	13(13)	5(8)
日高	9(9)	8(8)	8(9)	7(7)	5(5)	8(8)
留萌	1(1)	-	-	-	-	-
宗谷	6(6)	-	8(8)	-	6(6)	-
オホーツク	13(13)	-	15(15)	11(12)	15(15)	7(7)
十勝	101(116)	73(81)	91(118)	70(89)	78(78)	69(78)
釧路	170(199)	154(180)	162(187)	134(173)	165(203)	128(182)
根室	25(34)	25(26)	46(49)	41(43)	19(19)	15(15)
合計	354(407)	276(319)	362(419)	279(348)	312(350)	240(306)

4 調査主体及び調査協力機関等

(1) 調査主体

北海道（環境省委託）

(2) 調査協力機関等

市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、タンチョウ給餌人、日本航空株式会社、鳥獣保護監視員など

○調査協力者数

振興局	総計 (人数)	内 訳				
		関係市町村	関係市町村 教育委員会	タンチョウ 給餌人	鳥獣保護 監視員等	その他
空知	3	2			1	
石狩	0					
胆振	1					1
日高	6					6
十勝	26	20			1	5
釧路	130	36	4	13	7	70
根室	16	3	4	3	1	5
合計	182	61	8	16	10	87

※本庁、振興局職員を除く。

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和5年度第1回				令和5年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
空知	2	1	0	3	0	0	0	0
石狩	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振	7	4	0	11	0	0	0	0
日高	4	0	0	4	6	3	0	9
留萌	0	0	0	0	-	-	-	-
宗谷	5	0	3	8	-	-	-	-
オホーツク	0	0	0	0	-	-	-	-
十勝	183	26	0	209	70	14	10	94
釧路	666	77	13	756	1,039	117	3	1,159
根室	51	7	0	58	53	14	0	67
小計	918	115	16	1,049	1,168	148	13	1,329
飼育個体	35	2	0	37	35	2	0	37
合計	953	117	16	1,086	1,203	150	13	1,366

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	令和4年度第1回				令和4年度第2回				令和3年度第1回				令和3年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
空知	2	1	0	3	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0
石狩	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	-	-	-	-
後志	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
胆振	6	0	0	6	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0
日高	5	1	0	6	4	0	0	4	8	2	0	10	0	0	0	0
宗谷	2	0	0	2	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
オホーツク	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	9	0	0	0	0
十勝	182	16	0	198	79	3	0	82	126	9	0	135	65	5	3	73
釧路	577	74	17	668	1,049	121	2	1,172	666	58	0	724	1,265	80	37	1,382
根室	44	6	0	50	41	6	0	47	14	1	0	15	29	5	0	34
小計	818	98	17	933	1,173	130	2	1,305	829	72	0	901	1,359	90	40	1,489
飼育個体	34	5	0	39	34	5	0	39	35	1	0	36	35	1	0	36
合計	852	103	17	972	1,207	135	2	1,344	864	73	0	937	1,394	91	40	1,525

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 調査基準日の気象状況

○令和5年度第2回調査（令和6年1月24日 午後3時時点）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
空知	晴	-2.2℃	北北東	5.3 m/s	札幌管区气象台（岩見沢）
石狩	晴	-1.2℃	北北西	7.5 m/s	札幌管区气象台（札幌）
胆振	晴	-0.3℃	北	4.1 m/s	室蘭地方气象台（苫小牧）
日高	雪	1.8℃	西北西	7.4 m/s	室蘭地方气象台（浦河）
十勝	晴	0.1℃	北西	2.4 m/s	帯広測候所（帯広）
釧路	晴	0.7℃	西南西	4.0 m/s	釧路地方气象台（釧路）
根室	晴	0.4℃	西北西	3.7 m/s	釧路地方气象台（根室）

※ 天候は現地調査者からの情報により、その他のデータは気象庁公表データを使用

<参考> 令和4年度第2回調査（令和5年1月24日 午後3時時点）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
空知	曇	-9.2℃	北西	5.6 m/s	札幌管区气象台
石狩	曇	-8.3℃	北	5.8 m/s	札幌管区气象台
胆振	曇	-7.8℃	北北西	7.5 m/s	室蘭地方气象台
日高	曇	-6.8℃	北	3.9 m/s	室蘭地方气象台
オホーツク	晴	-3.7℃	北北西	1.8 m/s	網走地方气象台
十勝	曇	-4.2℃	北西	4.2 m/s	帯広測候所
釧路	曇	-2.7℃	西	1.8 m/s	釧路地方气象台
根室	曇	-2.7℃	北北西	2.2 m/s	釧路地方气象台

<参考> 令和3年度第2回調査（令和4年1月25日 午後3時時点）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
空知	晴	-3.2℃	北北西	0.4 m/s	札幌管区气象台
胆振	晴	-2.0℃	西北西	0.5 m/s	室蘭地方气象台
日高	晴	-0.8℃	北西	1.7 m/s	室蘭地方气象台
オホーツク	晴	-3.9℃	北西	2.7 m/s	網走地方气象台
十勝	晴	-3.7℃	北東	1.6 m/s	帯広測候所
釧路	晴	-2.0℃	西南西	4.0 m/s	釧路地方气象台
根室	曇	-3.4℃	北北西	6.6 m/s	釧路地方气象台

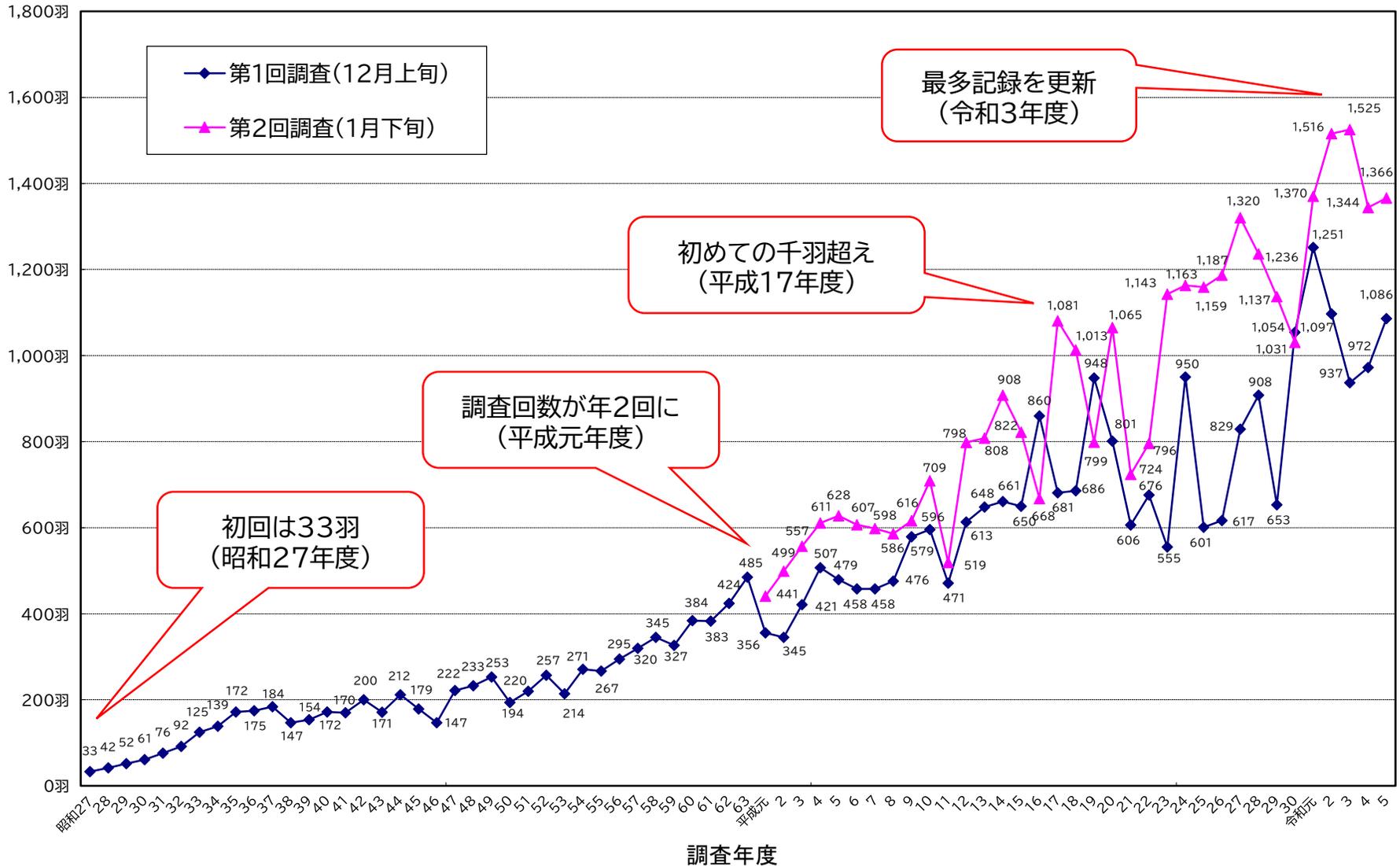
## 7 タンチョウ確認羽数(市町村別)

(羽)

市町村	令和5年度第1回				令和5年度第2回				
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	
空知	長沼町	2	1	0	3	0	0	0	0
	栗山町	0	0	0	0	0	0	0	0
	由仁町	0	0	0	0	0	0	0	0
石狩	千歳市	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振	むかわ町	5	3	0	8	-	-	-	-
	厚真町	2	1	0	3	0	0	0	0
	安平町	-	-	-	-	0	0	0	0
	苫小牧市	0	0	0	0	0	0	0	0
日高	日高町	4	0	0	4	6	3	0	9
	新冠町	0	0	0	0	0	0	0	0
留萌	天塩町	0	0	0	0	-	-	-	-
宗谷	豊富町	0	0	0	0	-	-	-	-
	浜頓別町	2	0	3	5	-	-	-	-
	枝幸町	3	0	0	3	-	-	-	-
オホーツク	網走市	0	0	0	0	-	-	-	-
	小清水町	0	0	0	0	-	-	-	-
	斜里町	0	0	0	0	-	-	-	-
	大空町	0	0	0	0	-	-	-	-
十勝	帯広市	2	0	0	2	0	0	0	0
	中札内村	0	0	0	0	-	-	-	-
	更別村	0	0	0	0	-	-	-	-
	大樹町	61	8	0	69	21	5	0	26
	広尾町	2	0	0	2	8	0	0	8
	幕別町	23	1	0	24	15	4	9	28
	池田町	4	1	0	5	4	1	0	5
	豊頃町	23	5	0	28	7	0	0	7
	本別町	0	0	0	0	0	0	0	0
	浦幌町	59	10	0	69	12	3	0	15
	音更町	6	1	0	7	3	1	1	5
	上士幌町	0	0	0	0	0	0	0	0
	足寄町	0	0	0	0	0	0	0	0
	陸別町	3	0	0	3	0	0	0	0
	鹿追町	0	0	0	0	0	0	0	0
	清水町	0	0	0	0	0	0	0	0
釧路	釧路市釧路	32	4	0	36	2	2	0	4
	釧路市阿寒	113	15	0	128	94	7	0	101
	釧路市音別	44	1	8	53	133	18	0	151
	釧路町	7	0	0	7	2	0	0	2
	厚岸町	0	0	0	0	0	0	0	0
	浜中町	34	1	2	37	54	12	0	66
	弟子屈町	7	0	0	7	0	0	0	0
	標茶町	147	19	3	169	135	10	0	145
	鶴居村	253	33	0	286	613	67	3	683
	白糠町	29	4	0	33	6	1	0	7
根室	根室市	9	1	0	10	9	2	0	11
	別海町	29	3	0	32	18	7	0	25
	標津町	4	1	0	5	0	0	0	0
	中標津町	9	2	0	11	26	5	0	31
小計		918	115	16	1,049	1,168	148	13	1,329
飼育個体		35	2	0	37	35	2	0	37
合計		953	117	16	1,086	1,203	150	13	1,366

# 過去のタンチョウ越冬分布調査の結果

○これまでのタンチョウ羽数の推移(昭和27年度から令和5年度 合計羽数)



令和5年度(2023年度)第2回タンチョウ越冬分布調査結果(振興局別、土地利用状況、給餌の有無等による分布状況)

1 振興局別の分布(飼育個体を除く) (単位:羽)

振興局	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	1,039	117	3	1,159
十勝	70	14	10	94
根室	53	14	0	67
日高	6	3	0	9
合計	1,168	148	13	1,329

※飼育個体を除いた野生個体1,329羽について分析を行っています。

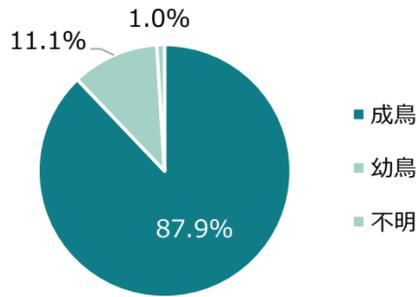


図1-1 成鳥・幼鳥・不明の割合

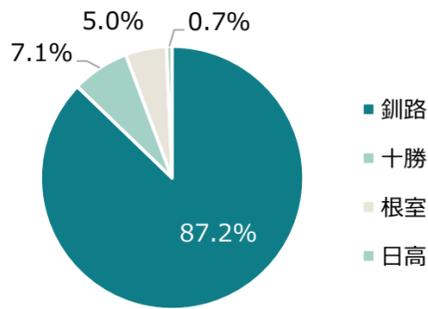


図1-2 振興局別の分布割合

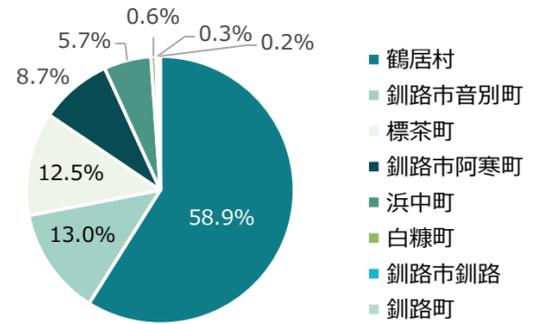


図1-3 釧路管内の分布割合

2 土地利用状況別の分布 (単位:羽)

振興局	畑・牧草地	農家・農地の堆肥	パドック	その他農家敷地	河川・湿地	その他	計
釧路	177	171	34	214	12	551	1,159
十勝	16	30	0	9	30	9	94
根室	10	5	20	26	3	3	67
日高	0	0	0	0	9	0	9
合計	203	206	54	249	54	563	1,329

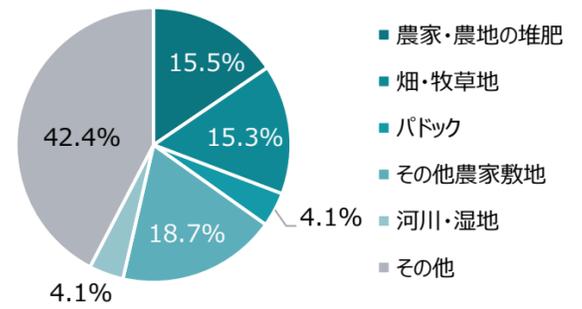


図2 土地利用状況別の分布割合

3 給餌の有無別の分布 (単位:羽)

振興局	給餌あり		給餌なし	計
	うち5大給餌場			
釧路	813	751	346	1,159
十勝	8	-	86	94
根室	5	-	62	67
日高	0	-	9	9
合計	826	751	503	1,329

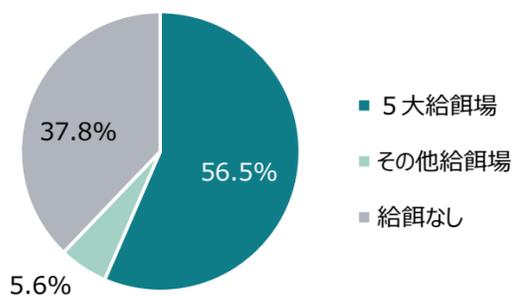


図3-1 給餌の有無別の分布割合

⇒ 3' 給餌なしの観察場所における土地利用状況別の分布 (単位:羽)

振興局	畑・牧草地	農家・農地の堆肥	パドック	その他農家敷地	河川・湿地	その他	計
釧路	69	171	34	52	8	12	346
十勝	16	27	0	9	25	9	86
根室	8	5	20	23	3	3	62
日高	0	0	0	0	9	0	9
合計	93	203	54	84	45	24	503

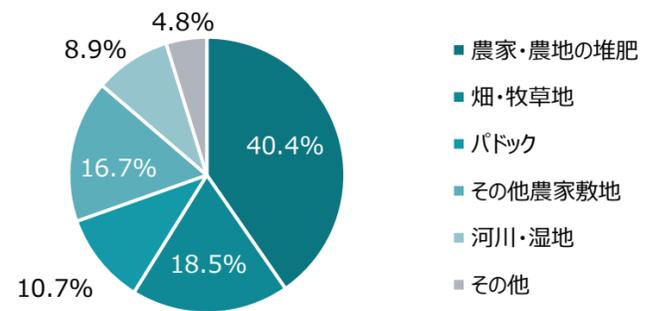


図3-2 給餌なしの観察場所における土地利用別の分布割合

4 50m以内の農家の有無別の分布 (単位:羽)

振興局	あり	なし	計
釧路	592	567	1,159
十勝	38	56	94
根室	59	8	67
日高	0	9	9
合計	689	640	1,329

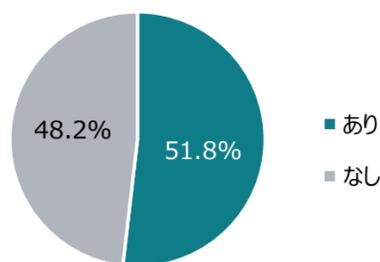


図4 50m以内の農家の有無別の分布割合

2024年2月29日

## 2024年1月（令和5年度第2回）実施の タンチョウ越冬分布調査結果について 正富宏之

### はじめに

2024年1月24日を基準日として、北海道内で目撃されたタンチョウの位置、幼鳥・成鳥（亜成鳥を含む）別羽数、所在地の環境などが記録された。また、羽数の確実な把握のため、鶴居村では大規模給餌場での午前及び午後の観察記録を参照したほか、少数個体が広く分布している地域では、重複記録に配慮しながら複数日の調査を行ったところもある。

なお、このコメントでは、飼育下の個体は対象外とし、年度内の第1回調査を「12月調査」、第2回調査を「1月調査」と記したほか、行政区を示す際に振興局の表記を省略してある。また、本文のカッコ内数値は前年の1月調査の記録を比較のために示してある。

### 1. 記録羽数とその特徴

#### 1-1. 羽数と増減割合

羽数：記録羽数は成鳥1,168羽、幼鳥148羽、成・幼鳥不明13羽の計1,329羽で、今年度12月調査（2023年12月5日実施）より成鳥で250羽増、幼鳥33羽増、不明3羽減で、合計では280羽多かった。また、前年の1月調査と比べると、成鳥で5羽減、幼鳥18羽増、不明11羽増となり、合計で24羽多かったことになる。

増減割合：今回の記録羽数を12月調査のそれと比べると、成鳥・幼鳥とも1.3倍を示し、不明鳥の割合は低下して、合計も1.3倍ほどで、前年と同様に増加傾向を示した。また、前年1月調査の羽数と比べると、成鳥はほぼ同数なのに対し、幼鳥は13.8ポイントの増加を示し、記録総数では1.8ポイントの増加にとどまっている。

#### 1-2. 各給餌場の飛来数

いわゆる五大給餌場（阿寒・下雪裡・中雪裡は環境省管理、音別・中茶安別は道の管理）では、下雪裡給餌場（通称鶴見台、以下給餌場を省略）での羽数が326(204)羽で最も多く、次いで中雪裡（通称サンク）200(144)羽、中茶安別105(141)羽、阿寒66(74)羽、音別52(160)羽の順となる。ただ、前年2位の音別が今年是最少となっているが、調査時に1.5kmほど離れたところに群れがあり、地域全体としては前年に近い生息数が記録されている。また、五大給餌場で記録された合計羽数の中で、下雪裡の個体数割合が43.5%を占め、前年の28.2%を大きく上回ったのが注目されるし、特に鶴居村における記録数が2019年以降600~700羽ほどを維持しているのは、課題であるタンチョウの集中解消の面から、注目しておくべきである。

#### 1-3. 個体数について

記録羽数は、前年よりも24羽多いものの、過去最多を示した2022年1月調査より160羽も少ない。今年の記録数を主要な越冬地である十勝、釧路、根室の3管内でみると、十勝では、これまでの最多記録である2018年度の91羽を3羽超えて記録を更新し、根室でも過去最多の前年数47羽を一挙に20羽を超える大幅な増加を示したのに対し、釧路では13羽とわずかに減少している。他方、五大給餌場と別のところに分散して暮らす個体は、前年とほぼ同じ580(582)羽である。

さらに、北海道に生息するタンチョウ個体数は近年1,800羽前後と推測され、今回の結果とは約500羽の差がある。このうち、十勝では今回記録数の2倍ほどの生息が見込まれるし、残りは根室での若干の見落としのほか、釧路における記録もれの可能性が高いと思われる。

### 2. 分布状況

#### 2-1. 分布管内数

今回タンチョウの生息が記録されたのは日高、十勝、釧路、根室の4管内で、12月調査より3管内少なく、記録管内数・減少数とも前年と同じである。ただ、今回調査時は目撃できなかったが、上記以外の2管内でも調査時点で生息が別途確実視されているため、実質今冬も6管内で生息していたとみなして良いであろう。

## 2-2. 各管内への集中度

各管内で目撃した羽数の割合は、多い順に釧路が全体の87.2(89.8)%、十勝7.1(6.3)%、根室5.0(3.6)%、日高0.7(0.3)%となる(図1-2参照)。前年に比べて釧路で2.6(3.0)ポイント減少したが、他管内はいずれも増加し、釧路への集中が前年に引き続き全体の90%を割って減少を示した。さらに、最近5(2018-2022)年間の釧路における割合は平均92.6%を示しているから、一見釧路から他管内への分散が進行しているかのように見える。しかし、釧路管内以外での繁殖増加や調査精度の向上による記録個体数の増加なども考慮すると、相対的な割合は低下しても、実数は高水準を保つと推測される。つまり、近年のタンチョウ推定総羽数からみて、釧路管内における多数のカウント漏れを考慮すれば、依然として釧路管内への集中(80%以上)が続いているとみてよい。

## 2-3. 市町村別の分布

今回の調査でタンチョウが確認されたのは、2(2)市14(10)町1(1)村の計17(13)自治体で、12月調査に比べると1(2)市8(11)町少なく、新規にタンチョウが記録された自治体も見当たらない。また、前年1月調査よりは4町多いが、2019-2023年の5年間の1月記録では13-18自治体数を示しており、経年的にも増加傾向は認められない。

自治体の中で最多羽数を記録したのは鶴居村で、前年1月調査より104羽多い683(579)羽を数え、釧路管内の58.9(49.4)%を占め、今回の記録総羽数の中でも半数を超す51.4(44.4)%を示している。2位は前年同様に釧路市(音別町や阿寒町を含む)であるが、目撃数は前年同期より70羽少ない256(326)羽(管内の22.1(27.8)%、記録総羽数の19.3(25.0)%)で、管内でもまた総数でも前年より5ポイントほどの低さを示した。なお、羽数の多い記録の3位は釧路管内標茶町の145(181)羽で、ここまでの上位3自治体の合計は総数の81.6(83.2)%を占め、前年より1.6(3.6)ポイント低い。さらに、記録数の4位は釧路管内浜中町66(82)羽、5位は根室管内中標津町の31(18)羽などで、4位までの順位は前年と変わらないが、5位は26羽の大樹町に代わり前年8位の中標津町となっている。

## 2-4. 利用環境

調査時における個体のいた環境は、畑・牧草地が前年よりやや多いものの、バドックや農家敷地にいた割合はほぼ同程度である(図2参照)。しかし、前年は河川・湿地にいたのが全体の10%なのに、今年はわずか4%に過ぎず、これに対し農家・農地の堆肥にいたのが昨年は7%で、今年は16%を示している。この違いは、調査時の天候・気温・環境の状態といった年特有の状況変化があり、それにより利用割合が変動するのは、むしろ通常と言える。ただ、「給餌なしの観察場所における土地利用状況別の分布」(図3-2参照)でも示されているように、採餌場として相変わらず堆肥が選択されている点は、給餌・分散・鳥フル・農業形態等々とのかわり方で問題視しておく必要がある。

なお、「給餌の有無別分布」(図3-1参照)と「50m以内の農家の有無別の分布」(図4参照)は前年とほぼ同じで、変化は認められない。

## 3. 繁殖状況

記録された幼鳥数は148(130)羽で、12月調査より33(32)羽増え、前年1月調査より18(40)羽多い。今回の記録総数には成鳥と幼鳥の区別がつかない13(2)羽を含むため、これを除いた1,316(1,303)羽の中の幼鳥割合は11.2(10.0)%を示し、12月調査で示されたと同様に11%台を保っていることから、繁殖は良好であったとみて差し支えない。

## 4. 総括と提言

今年度は高病原性鳥インフルエンザによるタンチョウの死亡が複数例確認され、従来から懸念されていた集団感染と個体群減少への恐れが現実のものとなりつつある。その基本的対抗策とも言うべき地域個体群の分散・分離は、冬期主に集団生活を行う現在のタンチョウにとり緊急の課題である。その課題解決のために、現在のタンチョウ生活環境の把握と分布状況、並びに個体数のより正確な把握が、まず求められる。

今回の調査では、特に少数個体が広域的に分布して、その検出に多大の時間と技術を要する根室地域において、調査日の複数化を採用する手法で、従来見落とされていた記録の発掘が行われたことは極めて意義深い。1月調査の際の課題指摘と共に、より正確な生息環境の現状把握や分布と個体数の関係が提示されており、関与された方々に衷心より敬意を表したい。

また、今年の繁殖状態を示す幼鳥割合が、前年に続き高い水準を保つことが示されたのは喜ばしい。しかしながら、越冬期に依然として釧路管内の一部に高密度に分布する状況は変わらず、また羽数把握の点からも、全体的に見て今回も十分な成果を挙げたと言えないのが実情である。実態のある程度の精度で捉える調査でなければ、現在置かれているタンチョウの個体群動態を理解出来ず、保護対策も効果的な形で実施できない点を深く考慮し、より有効な保全対策を実行するためにも、可能な限り実態に即した結果を得るようにしなければならない。

その改善のためには、まず広域的な調査のための経費増が必要であり、また調査者の限定を補うため、一般人の人々によるスマートフォンを利用した調査参加や、調査に先立つ事前情報の提供など、技術的にも調査方法改良の余地がある。従って、今後実施可能な善策の制定へ向けた努力がなされるべきであろう。